私立王政学園

零鎖

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
私立王政学園

【Ｎコード】
Ｎ３２１０Ｐ

【作者名】
零鎖

【あらすじ】
ここは、総生徒数４８０００人、敷地面積１４０２６５０平方メートル（東京ドーム３０個分）を超す小中高一貫のお金持ちしか入学することのできない金持ちマンモス校。名前は、私立王政学園。その私立王政学園の中等部３年第８クラスに転校生が来る。これは、主人公：紫雨斬菜と転校生の恋物語である。

紫雨斬菜編　《転校生》

ここは、総生徒数４８０００人、敷地面積１４０２６５０平方メートル（東京ドーム３０個分）を超す小中高一貫のお金持ちしか入学することのできない金持ちマンモス校である。
　その学校の名前は、私立王政学園

ーーーーーーーーーーーーー
ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

今回語り部を務めるのは、第８クラス（全１０クラス中）中等部３年生紫雨斬菜（しぐれきりな）。女みたいな名前だけど男だからそこを間違えるなよ？
　今日は2学期始業式である。毎度のことだが校長（通称ハゲゴリラ）の話はいつも無駄に長い！　普通に要点だけ言ってさっさと終われと思う。真面目に聞いてる奴なんて５０％、、、いや３０％にも満たないんだから。といっても、今回の校長の話はものすごく気分よく聞くことができた。なんたって、今日は自分のクラスに転校生が来るらしいから！！！　可愛い子がいいなー。性格いい子がいいなー。あっ、ごめんなさい。今、自分の欲望をおもいっきし言っていました。語り部失格ですね、すいません。と、まぁそれは置いといて、マジでさっさと終われ校長の話！！、、、、、、やっと終わった。時間３０分、、、普通に長い。さっ、始業式も終わったことだし教室に戻るか。

　さあ、教室に戻ってまいりました。まだ先生が来ていないため、転校生もまだ。テンションあがるぜ！　　　、、、ん？　誰か来た。
「おはよう、斬菜！　調子はどう？」
「おう！元気だぜ、詩峰」
　こいつの名前は柄李木詩峰（つかりぎしほう）。俺の友達だ。肩ぐらいの髪の長さで少し茶色まじりのパッツン。そして、かなりスタイルのいい結構人

気のある女子だ。
「ねぇねぇ、斬菜も転校生のこと気になるの？」
「気になる。めっちゃ気になる。ありえんほど気になる」
「ふ～～ん。どうして、気になるの？」
うっ、そこを責められると痛い。くっ、どうしてって言われても気になるもんは気になるんだよ。とでも答えるか？　いや、しかしこいつの場合はそう答えても、もっと聞いてくるんだろうな。、、、あっ、そうだ。
「今日、登校中に違う学校の制服着ててこの学校に向かってる子がいたんよ」
「うんそれで？」
「その子の足が、なんともいえないオーラを発していてむっちゃ惹かれたから」
「変態。エロ人」
「すいません」
そんな会話をしていたら、ガラッ、という音がして先生が入ってきた。一応担任の先生なので名前だけは公表しよう。貝塚士師記（かいづかししき）、男だよ。
「さっさと席についてけー。転校生の紹介ができらんぞー。転校生、早く見たいだろ？」
そういうと、クラス全体が『イエス、士師記先生！！！』と言い、そそくさと席に着いた。先生は生徒たちを見渡すと、転校生に入って来いと言った。今、かなりドキドキしてる。心拍数は、たぶん１８０を超してるよ。絶対越してるよ。カツッ、という音がして転校生が入ってきた。転校生は、純粋な黒髪で長さは腰ぐらい。ゴムやピンはしておらず、前髪の長さはそろっていなくて詩峰並みにスタイルがいい。そして、めっちゃ可愛い。ストライク、ストライクすぎるぜ！！！　俺の心にど真ん中！！！
「では、自己紹介をしてくれ」
先生がそう言うと、転校生は一歩前に出て自己紹介をした。

「私の名前は初音色九三七（はつねいろくみな）。私以上にお金持ちで可愛い子はもうこの世にいないわ。だから、私を崇め称えなさい！」

しんっ、と教室は一瞬静まり返り、それから所々で声がし始めた。

とまぁ、それはさて置き、、、、、前言撤回絶対無理！！！　性格嫌だ！　くそーーーーー！！！　俺の一瞬のトキメキを返せーーーーー！！！！！！！

紫雨斬菜編　《転校生》（後書き）

初投稿です。まず初めに最後まで読んでくださってありがとうございます。文法がおかしかったり、誤字があったかもしれません。あらすじの書き方も、絶対おかしいと思います。できれば、感想などを書いてアドバイスをください。よろしくお願いします。

紫雨斬菜　《進展？》

ここは、総生徒数４８０００人、敷地面積１４０２６５０平方メートル（東京ドーム３０個分）を超す小中高一貫のお金持ちしか入学することのできない金持ちマンモス校である。

　その学校の名前は、私立王政学園

　　　　　　ーーーーーーーーーーーーーーーー

ーーーーーーーーーーーーーーーーーー

　今回語り部を務めるのは前回と同じく紫雨斬菜（しぐれきりな）です。

さあ！　転校生、初音色九三七（はつねいろくみな）は、自己紹介の時点では性格最悪。この性格を喜ぶ人もいるだろうが、俺にとっては喜ばしくない！断じて喜ばしくない！　隣の席に来るな！！！　あいつのせきはど、、、こ、、、、ってめっちゃ隣じゃん！！！　嫌だ！　やめてくれ！！！　ほかに空いている席はないのか！！！　、、、無い！　やばい、どうしよう！　話しかけられでもすればやばいぞ！！！　、、、、ん？　待てよ。あいつの性格上、こちらから話しかけても「話しかけないで！　劣等動物が！」とか言われて相手にされないはず！　ならば、向こうから話しかけられることはない！！！　セーーーーフ！！！　ぎりぎりセーフだぜ！　イェイ！

「じゃ、初音色。一番後ろの真ん中の席に座ってくれ」

「はい、分かりました先生」

　そういうと、初音色はこっちに向かって歩いてきた。、、、しかし、歩き方きれーだな。おっと俺としたことが、いろんな意味で危ない女子の歩き方に見蕩れてしまうとは、、、何たる失態！　これではご先祖様に叱られてしまうではないか！！！　と、言っている間に危ない女子が目の前に来たではないか。だが大丈夫、話しかけられることは

「ふん！　あなたが隣なの？　まぁ、学校で生活するんだからこれくらいあたりまえか。しょうがないけど　、これからよろしくね」

「、、、、、、、、、」
「ちょっと！　こっちがよろしくって言ったのに無言はないでしょ！　手まで出してあげているのに！！！」
やばい、どうしよう、、、まったく予測していなかった展開だ。しかし！　けっこうフレンドリーそうだから挨拶ぐらいはするか。
「あぁ、これからよろしくな、、、初音色さん」
「！！！　様にしなさい！　さんではなく様よ！　いいわね！？」
「はっ、はい！　すいません初音色様！！」
「よろしい」
はぁ、なんだよこれ、、、フレンドリーなのかどうかまったく分かんねーよ
「はい、自己紹介が済んだところで授業をはじめるぞー」
ここで、「教科書が無いから見せて？」的な流れは無いよな。うん、絶対にない。胸を大きく張って言える。そんな流れ一切な
「転校初日で教科書が準備できなかったらしいから見せてくれない？　ていうか、見せろ」
、、、そんな流れがあっちゃったよ。うわー、いやだなー。これ普通にゲームとかでなら最高なのに現実で起きるとこれほどまでに嫌だなんて、、、初めて知ったよ。
「ほら、授業始まったじゃない。見せてくれないなら、、、奪うまで！　とうっ」
うわっ、マジで奪いやがったよ。まあ別にいいか。教科書の内容、一応頭に入ってるから、、、、、、あれ？　こんなところ、やった覚えが、、、無い！　やっべ！　どうしよう、ここで当てられたら終わりだぞ！　俺！　くっそ、恥をしのんで頼むか！
「教科書を見せてください、初音色様」
「はい？　なんであなたに教科書を見せないといけないの？　意味が分からない」
「お願いします。初音色様、なんでもしますから！！」
「にやり。なんでもしてくれるの？」

「はい、なんでも！」
「それじゃ見せてあげる」
「ありがたき幸せ」
、、、この会話で嫌なフラグが立った気がする。、、、ていうか、
まず最初にあの教科書、、、俺のじゃん。

紫雨斬菜　《進展？》（後書き）

２回目投稿、初心者：零鎖です。まず最初に最後まで読んでくださりありがとうございます。今回のミスがあるかもしれませんので、あったら言ってもらえるとうれしいです。あと、アドバイスももらえるとうれしいです。では、３話目を楽しみにしていてください。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3210p/

私立王政学園

2010年12月10日23時32分発行